く欲のアレヤコレヤに追いかけられる日々に疲れてしまったのでしょう。

しかし仏教の世界では、欲を捨て、迷いをなくし、悟りを開くことが最終的な目的になっていたはずです。だったら私に欲がなくなってきたことは、仏教的にはむしろ喜ばしいことのように思えます。それなのに私が、欲がなくなっていくことを社会からのドロップアウトの入り口のように捉えているところあたりが、まだ私が世俗にまみれた凡人であり、敬虔な仏教徒などではないということの証左でもあるのです。一般的に哲学者の唱える幸福論には大きく10種類の類型があり、仏教的幸福感もその中のひとつとして挙げられるのですが、私はどちらかと言えば、仏教的な「欲を捨て、迷いをなくし、悟りを開くことを幸福」という考え方よりは、むしろルソーの「自由で素朴な自然との調和が必要」という考え方の方がシックリくるのです。

そんな私が、具体的にイメージする理想の生き方とはどのようなものなのかといいますと、9月にアメリカの西海岸をドライブしている時に見かけたバンライフ（車を生活の拠点とし、旅をしたり仕事をしたりしながら自由に移動して暮らす生活スタイル）を送る人たちの生き方が最も近いのではないかと思っています。

それは外形的には、ベッドや調理器具を積載した車を住居として好きな場所を転々としながら暮らすフーテン（瘋癲）のようなイメージなのですが、その内実は、自分の人生から本当に必要なモノ以外の一切を排除して暮らすミニマムな生活様式でもあり、自然のリズムに合わせて居心地の良い場所にいつでも移動して暮らすような、執着やコダワリを捨てた究極的に身軽な生き方なのです。

自分にとっての最大幸福について考えた時に、もしも何かを選び、何かを捨てる必要があるのだとしたら、地位とか名誉とかお金ではなく自由を選んで、あの西海岸のオジサンたちのように生きて行くことができたなら…なんて、そんな中学2年生のようなことを悶々と考えているのです。

そんな夢想をしながら、呑気に事務所のPCで中古車検索サイトを開きキャンピングカーを検索していたら、税務署から電話がかかってきてしまいました。さて、そろそろ仕事しなくちゃ（汗）。

Akira Saito

昭和40年生まれ。神奈川県出身。平成15年税理士登録（東京税理士会京橋支部）。齋藤明税理士事務所所長・日本税務会計学会経営部門常任委員・医療法人研水会監事。ブログは「波乗り税理士・波に乗れるか？」http://blog.livedoor.jp/saiaki555/

【近況】飲みに行ってご機嫌になると、周囲の席で飲んでいる人や道で会った知らない人に話しかけて仲良くなったりして、一緒に飲みに来ていた連れに「恥ずかしいからそういうのやめて！」と怒られています。